

高齢者のアセスメント（課題への移行）

東海社会福祉科学研究所

大北 秀雄

高齢者は、季節、天候等の影響を受けることが大きいですので、日常の健康状態及び過去の生活状況等の把握が必要です。特に、疾病の記録については注意することが必要です。

高齢者は、現在に至るまでに多くの経験をしています。例えば昭和2年生まれの人であれば、現在82歳ですし、終戦の年（昭和20年）は18歳でした。戦争経験者であり、戦後の時代変化を体験してきた人たちです。

ケアマネジャーの人たちは多くが戦後生まれですし、多い世代は東京オリンピック（昭和39年）以降の人たちだと思います。

時代の出来事を少し整理して会話をすることが大切ですので、次のとおりまとめましたので参考にしてください

①「戦前の主な出来事」

1914. 7.28（大正3年）	第1次世界大戦(欧州戦争)勃発(8月日本参戦)
1919. 6. 28（大正9年）	ヴェルサイユ条約
1920（大正10年）	国際連盟に加入
1923（大正13年）	関東大震災が発生
1925（大正15年）	普通選挙法成立 治安維持法成立
1926.12.25（昭和元年）	昭和と改元
1929.10.24（昭和4年）	ニューヨーク株式市場大暴落、世界恐慌はじまる
1930. 4. 22（昭和5年）	ロンドン海軍軍縮会議
1931. 3.31（昭和6年）	国立公園法公布(4月施行)
1931. 9.18（昭和6年）	満州事変勃発
1932.5.15（昭和7年）	総理大臣犬養毅を殺害 5.15事件
1933（昭和8年）	国際連盟を脱退
1936. 2.26（昭和11年）	陸軍青年将校決起、首相官邸襲撃(2.26事件)
1937. 7. 7（昭和12年）	日中戦争(日華事変)勃発
1938. 4. 1（昭和13年）	国家総動員法公布(5月施行)
1939. 9. 3（昭和14年）	第2次世界大戦勃発(英・仏、対独宣戦布告)
1941. 3. 1（昭和16年）	国民学校令公布(4月1日から小学校を国民学校と改める)
1941.12. 8（昭和16年）	第2次世界大戦拡大、日本、対米・英両国に宣戦布告(大東亜戦争勃発)

1944. 7.	(昭和 19 年)	家庭用防空壕づくり指導及び灯火管制の徹底、警防団員による見回り強化
1945. 2.11	(昭和 20 年)	米英ソのヤルタ協定(対日処理に関する秘密協定)成立
1945. 3. 6		国民勤労働員令公布
1945. 3.10		B29 東京を大空襲(23 万戸焼失、死傷 12 万、罹災者 100 余万人)
1945. 3.18		閣議、決戦教育措置要綱を決定(国民学校初等科以外の学校授業を 4 月から 1 年間停止)
1945. 4. 1		米軍、沖縄本島に上陸開始
1945. 4. 5		ソ連、日ソ中立条約不延長を通告
1945. 5. 8		ドイツ無条件降伏
1945. 5.22		戦時教育令公布(全学校・職場に学徒隊結成)
1945. 6.13		大政翼賛会及び傘下諸団体解散
1945. 6.21		沖縄の地上部隊全滅
1945. 6.23		国民義勇兵役公布(男子 15~60 歳・女子 17~40 歳に適用)
1945. 7.11		主食の配給 2 合 1 勺となる(1 割減)
1945. 7.26		ポツダム宣言(無条件降伏・植民地放棄)を発表
1945. 8. 6		広島に原子爆弾投下
1945. 8. 8		ソ連、対日宣戦布告(9 日北満・北鮮・樺太に進撃開始)
1945. 8. 9		長崎に原子爆弾投下
1945. 8.14		御前会議、ポツダム宣言受託を決定
1945. 8.15		天皇、「終戦の大詔」を録音放送

② 1950 以降については「1950 年以降の時代変遷」を参照してください。

「戦後生まれの人たち」

- ① 「団塊の世代」とは、1947 年（昭和 22 年）から 1949 年（24 年）のあいだに生まれた人（その 3 年間の人口（出生数）は約 800 万人）
- ② 「ポスト団塊世代」とは、1952 年（昭和 27 年）～1958 年（昭和 33 年）のあいだに生まれた人
- ③ 「団塊ジュニア」とは、第二次ベビーブーム、1971（昭和 46 年）～1974 年（昭和 49 年）（1973 年には 209 万人）のこの 3 年間に生まれた人たちを一般的にいうことが多いです。
- ④ 「ポスト団塊ジュニア」とは、1975 年（昭和 50 年）～1980 年前半（昭和 58 年頃）までに生まれた世代を一般的にいうことが多いです。
- ⑤ 「コギャル世代」とは、1978 年（昭和 53 年）～1980 年前半（昭和 60 年）

に生まれた人たちで、「元祖コギャル世代」ともいわれています。「ポスト団塊ジュニア」との重なりがあります。

「アセスメントの実施」

- ① アセスメントを実施する場合は、会話・態度等がどうなのかで変わってきますので十分注意して行ってください。（自分の力を考えることも必要）
- ② アセスメントを実施する場合、前回の資料を色鉛筆で修正することが大変便利です。変化部分が色で識別されるため変化を捉えることが容易になっています。（実施日と色の記載が必要）
- ③ アセスメントの結果整理後、問題点が明確になってくると思います。なるべく多くの問題点を出すことが必要です。
- ④ 問題点が整理されたら、次に課題整理に移行
 - ・ 必要度合いの検討
時間、対処、関係者など
 - ・ 目標としての検討
介護保険、介護保険以外の制度、家族など
 - ・ 本人の対応
本人の意識
 - ・ 期間設定
 - ・ 評価内容
評価の実施内容により捉え方が変わるので注意